

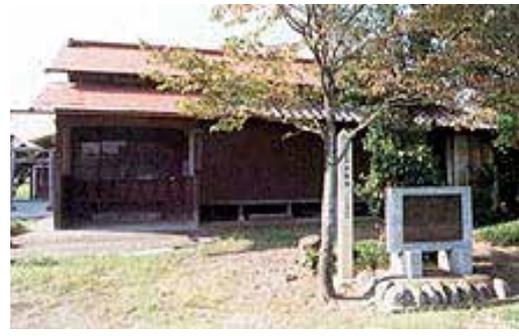
江戸時代の村と現代⑤

江戸時代を通じて、庶民のリテラシーが高まっていた背景は、彼らが携わる仕事、営む生活において、文字の果たす役割が、高まっていたからにはほかなりません。逆説的にいえば、庶民の側でも、教育を欲していた時代であったともいえます。しかも、ただ単に「読み書きそろばん」という基礎学力だけを庶民が望んでいたのではないところが、江戸時代の教育力の高さなのです。

「読み書きそろばん」もちろんですが、庶民教育において最も重んじられていたのが、「躰」や「道徳」でした。そういうと、「封建社会の為政者側、つまり支配者側に都合がよいように庶民教育が行われていたのではないかと」と、訝る人もいるかもしれませんが。しかし、寺子屋などの庶民教育は、幕府や藩の命令で推進されたわけではありません。幕府支配は、原則民事不介入であり、寺子屋など庶民の子弟教育は、為政者の許認可必要なしに、誰でも開業することが出来たのでした。その中で庶民が求めた教育とは、社会で一人前の人間を育て上げることだったのです。ややもすれば、現代は、「勉強さえ出来れば…」と、学力あるいは学歴偏重となり過ぎ、躰や道徳は置き去りにされる場合があります。

ます。延いては、勉強や仕事が出来ても、社会性が伴わない人間となる恐れさえあります。今こそ現代人は、江戸時代の教育に学ぶべきではないでしょうか。

翻って、寺子屋などの子弟教育のみならず、庶民の生活哲学でもある石門心学の普及を見ても、あらゆる階層の人々から、それが受け入れられたのも頷けるのではないのでしょうか。大島村（現杉戸町大字大島）にその拠点施設である恭侯舎が設けられたのも、そうした江戸時代の教育的思想が、当該地域の人々にも根付いていた証といえます（つづく）。



▲恭侯舎（大島地内）

（社会教育課 町史・文化財担当編）

Enjoy Sports ★ スポーツ協会 Vol.8

杉戸町卓球連盟

杉戸町卓球連盟の沿革

当連盟は昭和51年（1976年）に杉戸中央卓球クラブとして結成。のちに、各地区（中央・泉・西）に分かれ、各役員は地元を中心に活動しています。

卓球技術向上はもとより、日頃、運動の機会の少ない人達が、健康維持と相互の親睦を目的として活動しています。

活動内容

- 各クラブ対抗連盟大会（年4回）
- 杉戸町スポーツ大会卓球の部（年1回）
- 東部地区卓球大会・各市オープン大会などに参加。

PRポイント

卓球は、誰でも一度はやったことのあるスポーツで、子どもから高齢者まで年齢に関係なく、各々の目的に応じて楽しめるスポーツです。卓球に興味や関心がある方は、各会場に足を運んで頂き、実際に体験してみてください。

※当連盟は、各大会の日程や結果など、様々な情報をホームページ(右QRコード)にてお知らせしています。

▶杉戸町卓球連盟についての問合せ 会長 坂庭 正憲 ☎ (34) 2535

登録団体及び加盟人数（令和3年度）

- 3団体
- 中央卓球愛好会：男子33名、女子12名 計45名
- 泉卓球クラブ：男子17名、女子11名 計28名
- 西卓球クラブ：男子17名、女子10名 計27名

